

月刊 動労千葉

動労千葉結成10周年!

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

1989.3.31 No. 3005

反合・運転保安確立 清算事業団肉争を軸に反撃へ



10年間の成果の上に、実力反撃にたとう

動労千葉結成10周年にあたり

分割・民営化強行
2年はやくも破綻が

国鉄分割・民営化が強行されてから、早くも二年が過ぎた。鳴物入りで発足した「新生JR」は、そのハテナな宣伝とは裏腹に、たった二年間で、分割・民営化政策が元来かかえていた矛盾―破綻性が白日のもとに一挙に噴出しはじめている。清算事業団に肩代わり

した長期債務は、毎年一兆円の利子を生み出しており、その解決のメドすらたっていない。九〇年以降年間三千億円の赤字が見込まれる鉄道年金についても「自助努力」のみだ。また、整備新幹線問題では、早くも、「外部勢力の介入」が始まり、唯一、うまくいったかに

JRになつて
何がかわつたのか

みえた労組つぶしにして、御用組合「鉄道労連」の内部では、革マル問題をめぐって修復不能な亀裂だ。そして、なによりも重要な安全問題では、とうとう東中野駅事故をひきおこし、全国民に「今、鉄道が危ない」こ

とを印象づけてしまった。加えて清算事業団三千名の不屈の闘いは、各地で地労委闘争の勝利をかちとり、いまや清算事業団そのものを、敵にとって手かせ・足かせのものと化してしまった。

4・6
木戸君
地労委
15時

その上、経営中枢が(とくに東日本で顕著だが)、かつて傍系、亜流にすぎなかった輩どもが、タナボタ式にころがりこんだ権力、地位、利権にしがみつき、分もわきまえずに、こともあろうに希代のファシスト集団・革マル松崎一派と結託し、無茶苦茶なことをやっているのだから、救いようがないのだ。「JRは、国鉄時代より、官僚的で硬直している」という「声なき声」は、現役・OBを問わず管理者も含めて常識となっている。こうした事実、つぎつぎと明らかになって、せいぜい「JR二年の成果は」サー

動労千葉の
闘いが花開く

まさに、JR体制―分割・民営化体制は、深刻な危機に直面し、動労千葉が血を流して闘ってきた正義性が、大きく花ひらく情勢が到来しつつあるのだ。とき奇しくも、国鉄解体過程で、濡れ手に粟のボロもうけをした中曽根―竹下自民党内閣は、消費税導入もからみ、支持

われわれは、不当解雇者、清算事業団、強制配転された仲間たちの怒りを今一度かみしめ、反合・運転保安闘争、清算事業団闘争を両軸に、竹下自民党政打倒の闘いを結合し、勇躍反撃に打ってよう。

組合員・家族会・OB会の皆さん、ぜひとも参加を

4月15日(土) 結成10周年記念レセプション

千葉県労働者福祉センター・大ホール、13時から